

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 薬学府

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ「教育内容」

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「学生や社会からの要請への対応」

改組前の学生および製薬企業等へのアンケート調査結果によると、1) 社会において通用する実力の養成 2) 外国語能力の養成 という要請が多かった。これらは薬学府の教育目的である 1) 幅広い知識を生かした高度専門的能力を備えた人材の育成。2) 国際的競争力を備えた研究者・教育者たる人材の育成。3) 知的財産、インターンシップ等をはじめとする社会連携などにも深い理解を持つ人材の育成 などにも合致している。これらの学生や社会からの要請に対応して、資料Ⅱ-Aに示すように、新たな科目群を設置・開講し、平成22年度からの実施体制を整えた。具体的には、薬学研究・創薬の知的財産や社会連携などの周辺分野の理解を目的とした薬学総論Ⅰ～Ⅲ、国際的専門性の基盤形成を目的とした先端研究英語講義および英語科学討論などの新科目である。

資料Ⅱ-A 学生や社会からの要請に対応して実施される科目の概要

科目区分	授業科目	概要
大学院薬学総論	薬学総論Ⅰ	製薬企業講師による具体的な創薬の成功例の講義を通して最先端の創薬の現状と問題点を理解する。病院薬剤師などの職能従事者による講義を通して、育薬の現状と問題点を理解する。創薬研究に関わる生命倫理を理解する。本講義により、創薬・育薬の全体像を把握し、専門研究から問題点の解決に取り組む人材の養成に貢献する。
	薬学総論Ⅱ	最先端で研究している研究者、多彩なキャリアを持つ企業人、企業の重要な部門である知的財産権獲得の最前線で活躍している企業人。企業で活躍する際の心構え、また薬学に関連する経済感覚を教授する講義を行う。
	薬学総論Ⅲ	学生が主体となって、テーマや講師を企画する創薬コロキウムにより、学生の関心の高い薬学領域およびその周辺領域のトピックスについての理解を深める。
先端研究英語講義	医薬化学研究	4つの専門分野別の先端研究英語講義(外国人客員教授による講義も含まれる)により科学論文発表および英語科学討論の訓練により世界で活躍できる科学者としての素養を身につける。
	生物薬学研究	
	物理薬学研究	
	医療薬学研究	
薬学研究教育実習(研究・技術実習)	英語科学討論	教員指導のもとで、TA・RAに採用されている外国人留学生を活用し、少人数グループによる英語科学討論を行い、英語による討論力を養う。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 薬学府

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ「教育方法」

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## ○顕著な変化のあった観点名「主体的な学習を促す取組」

これまで九州薬科学教育研究連合（九州大学大学院、長崎大学大学院、熊本大学大学院）による3泊4日の合宿研修プログラムを平成18年度より継続的に実施してきた（資料Ⅲ-A）。平成21年度よりそのプログラム内容を改め、特に企業および上記3大学以外の大学講師招聘に注力し、薬学における世界戦略の中での将来設計について討議を進めるとともに、徹底した少人数討論を行い、自らの考えを見つめ直す機会を学生に与えた。参加学生全員が合宿終了後に提出した感想文を記した「合宿研修・概要集」において、全員が本プログラムに参加して良かったと述べていることなど、本合宿研修の成果は大いに上がっている。

## 資料Ⅲ-A 合宿研修プログラムの概要について

<p><b>本講義の教育目標</b>.....</p> <p>創薬に関わる先端のおよび実用的研究のみならず、創薬プロセスとその過程に含まれる問題点・課題を理解する。また、議論技術と発表技術を習得する。</p> <p><b>授業の概要</b>.....</p> <p>3泊4日の日程で解説講義を聴講すると共に、与えられた課題の解決策提案に向けた小グループ討論を行う。得られた解決策を全体討論会で議論する。参加者は発表や質問が義務づけられる。</p> <p><b>試験・成績評価など</b>.....</p> <p>発言内容や討論における貢献度等を総合的に評価する。</p> <p><b>授業の進め方・教科書・参考図書</b>.....</p> <p>講義聴講と課題に対する議論およびその成果発表等によって進める。各人の合宿研修時点での知識によって議論に取り組みさせるため、教科書および参考書は特に指定しない。</p> <p><b>履修上の留意点・その他</b>.....</p> <p>特になし。</p>	<p style="text-align: center;"><b>授 業 計 画</b></p> <p><b>学習目標</b>.....</p> <p>創薬研究の現状や課題を認識し、討論技術を向上させる。</p> <p><b>講 義</b></p> <p>教育講義、1回（大学講師）： 先端研究講義、3回（大学講師）： 企業戦略講義、2回（企業研究者）</p> <p><b>課題に対する討論と成果発表</b></p> <p>討論、8時間（数回に分割）： 成果発表会、3回（各1時間）</p> <p>学生、大学研究者および企業研究者の交流と個別教育 個人的交流や個別教育を促進するための時間を設定する。</p>
---	---

平成22年度より開設される新講義「薬学総論Ⅲ」では、受講学生が自らテーマや講師を企画し、シンポジウムとしての「創薬コロキウム」を実施する。本講義の目的は、薬学を学ぶ目的意識をより明確にし、その動機付けを高めるとともに、薬学研究者としての科学的思考能力を涵養することにある。それに加え企画力や交渉力など次世代リーダーに必要な素養も養成される。本科目の実施概要・実施体制についても既に整っている。具体的には、第一段階として、学生の関心の高い薬学領域およびその周辺領域のトピックスについての理解を深める過程では、徹底した少人数討論で進める。アドバイザーとしての教員の果たす役割も重要である。第二段階ではテーマについての大きな方向性の絞り込み、第三段階では講師の選抜をはじめとするシンポジウム「創薬コロキウム」の企画・広報、第四段階が開催である。本シンポジウム「創薬コロキウム」は広く公開される。